

おおさわの輪

つないでいく地域のこれから

その 8

診療所だより

第四五〇号（11月号）

発行（医）宏友会
上田診療所
酒田市上野曽根
字上中割73番地
TEL.0234-27-3306
責任者 矢島恭一



阿部彩人さん

ふるさとへの想いと
その発信

今回お話を伺った阿部彩人さんは合同会社COCOSATOの代表として大沢地区で地域づくりに取り組んでいます。昨年夏、八幡地区で発生した豪雨災害では、その直後から壊滅的な被害を受けた被災地へ入り、ドローン等を用いながら被害状況や復興へ向かう地域と人の表情を発信しています。

彩人さんは漆曽根の出身で「田舎から出たい！」と大学進学を機に上京し、社会人となつてか

らはIT業界や企画の仕事に携わってきました。その後、慌ただしい都会生活の中で故郷の良さに気付き、二〇一八年にUターンすることを決意しました。当時、募集のあった大沢地区の地域おこし協力隊として移住し、既存資源の掘り起こしから着手します。

大沢地区には、山の斜面に『大』文字が浮かび上がるように工夫して除草を行っている場所があり、それをシンボルとして『大』文字のライトアップや「大沢大文字まわり」を企画し、毎年開催しています。地域の取り組みとその魅力を外へ伝え続けることは、そこに住む人々の一体感を高めました。



池田充直先生が描いた絵地図を掲げながら
進めるこれからのふるさとづくり

人のつながりは、地域外にも広まりつつあります。昨年、大沢地区を襲った豪雨災害の復旧のため、被災地では七千六百人以上のボランティアが活動し、その半数は県外からの参加でした。阿部さんがYouTubeで発信した映像を見て駆けつけた人も多く、その関わりをきっかけに、地域を支援したいという人も増えています。

復興、その先を目指して

「みんなで作る新しいふるさと」をスローガンに掲げた「大沢未来づくりビジョン」では住む場所に関わりなく、すべての人にとって大沢地区が新しい心の故郷のような存在になることを目指しています。今年夏に開催した復興イベント「大沢復興フェス」は希望と笑顔に溢れ、大変盛り上がったそうです。

地域で開催するイベント、「じゅんさい」沼や遊休農地を活用した農業、大文字登山といった自然体験、そしてそれらを撮影した動画などは地域外の人達が関わるきっかけになり得るものです。大沢地区のこれらの形を見据えながら、阿部さんの挑戦は続いていきます。

詩の部屋へ

ひだまりスケッチ

空

伊藤志郎

断食を行ったあとの空は
少年の日の空に似ているという
それでは大人になった 今
時に見上げる空は
少年の日の空とはちがった空な
のかもしれない
断食を行った人が話すには
大人は知らず知らずのうちに
ストレスを感じてしまっている
という
—— そうなのかもしれない
もう少年の日の空を感じることは
できないのかもしれない
そう思っ空をながめれば
私が見上げる空は
フィルターのかかった空
少年の日の空ではない
少年の日の空を感じるために
フィルターの無い空を感じるた
めに
私は何度も自問する
—— 少年の日に見た空の青さに
出会うために



—— 少年の日に見た空の青さに
出会うために
私の頭のなかで
くるくる
くるくる
水澄ましのように
同じ呪文がかけめぐる

ホットニュース

撮影前のオフショットです♪



パシャリ!

祝! 開業40周年



秋の恒例

わいわい芋煮会!



めぐみ薬局様より
いただきました



診療所の記念撮影

矢島 恭一

先月号に今年10月1日で上田診療所が開業40周年を迎えたことを書きましたが、診療所近くを走る国道344号のバイパスが開通したことをもとにその歴史についてでした。

今回は診療所の開業記念日に毎年撮る記念撮影について書きます。私のところでは、毎年10月1日の開業記念日に記念撮影をすることにしています。

「診療所だより」の1月号の表紙に掲載しているあの写真です。

今年は40周年だったので、真面目に撮った写真と40周年の文字を入れ、ややくだけた写真も撮影しました。

この写真は新年号には載りませんでした。この欄のイラストにしてみました。

このイラストは、写真を生成AIに読み取らせ、イラストにスタッフの手を加え、できあがったものです。

開業記念に撮った40年前の写真には、9名が写っています。翌年には倍の18名、その翌年は21名となり、入院設備があった時代には、この位で推移していました。

これらは一覧できるように毎年額に入れ、患者さんには目に付かないような所内の壁に掛けてあります。

1枚（1年）増えるたびに1枚

ずつずらしていき、今年で41枚になりました。今年のものは、診察室にこれから1年間掛けますので、お目に触れる機会もあるかと思っています。ところで昨今世の中に写真が溢れていると感じませんか。その原因を私は写真の媒体がフィルムからデジタル記録に変わったこと、次に携帯電話の発達と関係あると考えています。

ひと昔前までフィルム式カメラで撮っていたのが、あつという間にデジタルカメラで撮るようになり、ス



マホでも簡単に撮ることができるようになりました。新しい機種が発売されるたびに、高機能のカメラ機能が搭載されるので、ユーザーとしては購買意欲をそそられます。

また撮った写真は、デジタル化されているので、簡単に送ることができます。不特定多数にもフェイスブックやインスタグラムを使えば送信することができず。しかしそのこと自体に不快感を覚える人もいることから私は使ったことはなく、やり方

も分かります。

デジタル化した写真を保存するのも様変わりしました。

ご承知のようにフィルムで撮った写真を保存するために、ネガフィルムを取っておく必要がありました。しかし初めからデジタル化したものは、データとして保存することができず。写真を探すことが短時間でできます。当然ながら、ネガフィルムもデジタルのデータも整理をきちんとしているかどうかには困りますが、検索専用のソフトもできています。

しかし技術が進んだ結果、本物に似せた写真を創ることも可能になりました。ヒトが偽物か本物かを識別する能力を遥かに超えているので、つい騙されてしまっています。記念写真も撮る当日に居なくても、あたかも居たように加工できるそう。そうすると記念写真を撮る意味や価値が薄らぐように感じます。私の思い込みでしょうかね。

さて「診療所だより」の2面に、平成19年5月（2007年）から18年間一度も休むことなく投稿下さっていた池田充直先生原稿がついになくなりました。あとをどうしようかと思案した結果、診療所で以前働いてくれていた伊藤美智子さんのご主人伊藤志郎さんが、ご自分の詩と絵で担当してくれることになりました。ストレスの多い時代にほっとするような癒やしの詩をこれまで同様にお楽しみ下さい。

子どもたちの

さくひん

鳥海小学校



▶ 大好きなアーティストのライブに行ってパワーチャージ👏

▶ 一度行ってみたかった
国立科学博物館の地球館！
大迫力でした

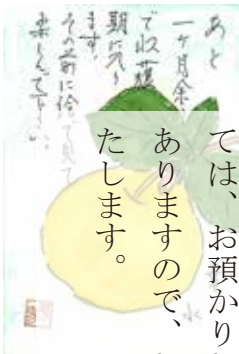
vestagram



事務主任
池田 萌子



職員が撮ったお気に入りをご紹介します★



『今月の絵手紙』につきましては、お預かりしていたものがありますので、しばらく掲載いたします。



診療所にてききな絵手紙を届けてくださった富山市在住の土田芳男さんが十月十九日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

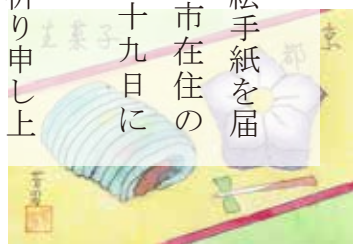


今月の
絵手紙



10月号の答え

宮城県・秋田県
福島県・新潟県



本楯保育園より

おしらせ

一緒に働く仲間を募集しています！

詳しくはハローワークのサービスにてご確認いただけます。元気でやる気のある方、ご応募を心よりお待ちしております。お問い合わせは左記へご連絡ください。

本楯保育園
TEL 0234・28・2136

担当 阿部

編集後記

現在、園内を大規模改修中です。来年度には新しい本楯保育園に生まれ変わります！

阿部彩人さんからマコモダケをいただき、天ぷらにして食べてみた。クセがなく美味しかったです。地域資源の見直しなど行っていることに学びが多く、とても有意義なインタビューとなりました。

(平井)

